

学校教育ビジョン			「知・徳・体の調和のとれた心豊かで逞しい児童の育成」							
<b>教育目標</b> 「知・徳・体の調和のとれた心豊かで逞しい児童の育成」 <b>めざす学校像</b> 一人一人が尊重され、「調」が輝く学校(学校の存在意義) ・学び合い、個々の資質・能力を伸ばす学校(学校で学ぶ目的・意義) ・児童、保護者、地域の方々から愛され、信頼される学校(学校のあるべき姿)			<b>「知・徳・体の調和のとれた心豊かで逞しい児童の育成」</b> 授業力の向上 ← 心の力の育成 ← 社会性(資質と能力)の育成 ← 郷土の教育力の活用							
評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取り組み状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程 学習指導	主体的に学ぶ育てる授業 づくり	「教科書で教える」授業スタイルの副読本の授業を通して、子どもたちが学習のめあて達成に向けて主体的な学びができるよう、「単元横断シート」を活用した「単元横断型」教材で児童が自ら学習し、目標達成を喜び、達成感を感じながら「単元横断型」の活用「学習」を自ら進めようとする意欲を高める。1人1人の学習状況に応じた個別指導や個別指導の活用など、授業実践の取組を行う。	研究主任	昨年度は水戸部修治先生との取り組みにより、「教科書で教える」授業スタイルの大きな転換を図ることができた。しかし、児童は国語科の学習を楽しく感じず、国語科を日常的に生かしている実感も薄い。児童が主体的に学び、自己の成長を実感できるような授業の実践が必要である。	[満足度指標] 国語科において、児童が主体的に学ぶことができたかどうか。	国語の授業で主体的に学べたと感じている児童の割合が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	7月と12月に児童にアンケートを実施			
	確実な学力向上	目標達成にこだわった授業を行い、単元テスト平均80点以上学校全体の90%以上を目指す。また、単元テスト確認テスト、学力調査問題に取り組み、授業改善を積み重ね、学力テスト・正答率(70%以上)を目標に取り組み、単元末評価問題を解ける力をめざす学習活動を行う。一人一人の学習状況に応じた具体的な指導に、授業改善につなげ、確実な学力向上につなげる。	教務主任	単元が始まる前「単元末評価問題(過去問)」を確認し、具体的な時間になんの手立てをとるのかなどを単元構想すること、授業改善につなげ、確実な学力の向上につなげる。	[成果指標] 単元テスト(クラス平均):80点以上の割合 [成果指標] 単元末評価問題として学力調査問題の正答率が70%以上	単元テスト(クラス平均):80点以上の割合が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 単元末評価問題として行った学力調査問題の正答率が A:70%以上 B:60%以上70%未満 C:60%以上60%未満 D:50%未満	学期末ごとにクラス平均点とその割合を検証			
	家庭学習の充実と定着を図る。	「分校小家庭学習のすすめ」や「おすす自学メニュー」を作成し、学校と家庭で連携を図ることで家庭学習の充実と定着を図る。よい自学を紹介し、意欲の向上を図る。	教務主任	「分校小家庭学習のすすめ」や「おすす自学メニュー」を作成し、児童・家庭と共通理解を図る。よい自学を紹介することで、児童の自学(家庭学習)に対する意欲を高めている。	[成果指標] 学年相応(学年×10分+10分以上)の家庭学習の習慣が身についているか。	学年相応の家庭学習が身につけている児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		各学期ごとに児童と教職員にアンケートを実施		
	ICTを活用して、協働的で、対話的な学びのある授業を実践する	ICTサポートにて、端末操作についての相談の場を設ける。様々な教科で、児童の考えを共有する場面を活用していく。毎月、校内研修を定期的に行い、授業実践の交流を図る。	情報担当	ICTを使った授業を積極的に実践して、児童も抵抗なくスライドを作成したり、発表したりとICTを活用している。今後、更に、協働的で対話的な授業のために、効果的なICTの活用方法を取り入れていく必要がある。	[満足度指標] ICTを使った授業で、考えを深められたか。	ICTのおかげで考えや理解が深められたという児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童にアンケートを実施		
	思考の深まりが見られる道徳授業の推進	道徳の授業において、児童を引き込む中心発問と児童の考えが可視化された思考が深まる板書を意識し、思考の深まりのある授業を行う。	道徳教育推進教諭	学習の最後の児童の姿や、振り返り意識した授業の組み立てを行ってきた。また、児童が考えたくなる中心発問や児童の考えが可視化された思考の深まる板書工夫し、主体的に深い学びのある授業を実践してきた。	[満足度指標] 友達と考えを交流することで、自分の考えを深めたり、新しい考え方に気づくことができたか。	道徳の授業で友達と考えを交流することで、自分の考えを深めたり、新しい考え方に気づくことができたか A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に教職員にアンケートを実施		
	読書活動の充実・質的向上	朝読書で集中して読書する時間を確保する。また、3冊借りられる日の設定や図書委員の活動が、必ず読書の本の紹介などを通して、読書活動の充実を図る。	図書担当	読書が好きで、集中して読むことができる児童が多い。3冊借りられる日の図書委員利用は多いが、その他の日の差が大きいことから、図書室に行きつけを増やすことで、読書活動の充実を図る。	[成果指標] 図書室を利用したり、朝読書などで読書に取り組み始めたかどうか。	図書室を利用したり、朝読書などで読書に取り組み始めた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童にアンケートを実施		
②生徒指導	他者を認め、安心して生活できる学校づくり	毎月の児童理解の会での情報共有及び教職員によるいじめチェック表の実施、年4回のいじめアンケートの活用などを通して、いじめの未然防止と早期発見・対応に努める。	生徒指導主事	いじめは小さな芽で摘むという認識の下、いじめの防止は組織的に対応を行い、指導後も複数の教職員で見取りを行っている。どの学級にもいじめは発生しないよう認識で学級経営を行っている。	[満足度指標] 友達のような気持ちに気づき、安心して学校生活を過ごしたか。	友だちのよいところに気づき、安心して学校生活を過ごした児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童にアンケートを実施		
	主体的にクラス、学校をよりよくしようとする児童の育成	学級目標を大切に、毎日ふり返り、目標を設定したりふり返ることに努める。	生徒指導主事	学級目標を飾りにするのではなく、学期初めの児童の気持ち大切に、日々ふり返りたり短期目標を設定したりして児童の達成感と主体性を育てる。	[満足度指標] 学級目標を大切に、よりよい学級、学校づくりを目指したか。	学級目標を大切に、よりよい学級、学校づくりを目指した児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童にアンケートを実施		
③キャリア教育 進路指導	キャリア教育の推進	学年ごとに自分に挑戦ナンバーを設定し、自分の目標を持って努力し振り返ること、自己の成長を実感できるようにする。	キャリア教育担当	学校生活の様々な場面で前向きに頑張る児童が多いが、自己の成長を感じ取り、現在の活動が将来に繋がっていると意識する児童は少ない。キャリアパスポートを活用し、毎月ふり返りを行うことで、自己の成長を実感したり、新たな課題を見つけていく児童を育てる。	[満足度指標] 自分に挑戦ナンバーから目標を決め、達成に向けて頑張ることができたかどうか。	自分に挑戦ナンバーから目標を決め、達成に向けて頑張ることができた児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童にアンケートを実施		
④保健管理	規則正しい生活習慣の確立	規則正しい生活習慣の確立に向けて、児童健康委員会・母親委員会等と連携して啓発を行う。	保健主事 養護教諭	コロナ禍という現状をふまえて、早寝・早起き・メディアコントロールに加え、心の健康に関しても注視する必要がある。	[成果指標] 児童と保護者が「早寝・早起き・朝ご飯」メディアコントロールを意識して実践しているか。	実践していると答えた児童と保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に児童と保護者にアンケートを実施 学期毎の生活リズムチェックカード		
	運動能力の向上	長体目の体力づくりや体育の授業を通して、運動能力、特に走力の向上を図る。	体育担当	継続的に体力作りや学年の取り組みが行われているが、走りに課題がある。令和3年度のスタートテストでは50m走のタイムが学年で県平均を下回っていた。ICT機器の活用、スポチャレいしわへの積極的な参加を通して、走力の向上を目指す必要がある。	[成果指標] 体力づくりや体育の授業を通して走力が向上し、県平均を上回ることができたか。	50m走のタイムが、1回目(5月)よりも2回目(11月)の上回った児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		5月と11月に50m走の測定実施		
⑤安全管理	火災・不審者・地震津波を想定した避難訓練の実施	火災を想定したもの、不審者を想定したもの、地震・津波を想定したものをそれぞれ1回ずつ実施し、関係機関と緊密に連携していく。	教員	消防署や警察署、こども園と連携しており、児童の判断力や危機意識をさらに高める。引き渡しカードの見直しや引き渡し訓練の実施、危機管理マニュアルやアクションカードの見直しをしていく。	[満足度指標] 児童及び教職員自らが判断しなければならぬ避難訓練を実施し、成果を出すことができたか。	児童及び教職員自らが判断しなければならぬ避難訓練を実施し、実践的な成果があったと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に教職員にアンケートを実施		
⑥特別支援教育	児童の特性に寄り添った支援の組織的支援体制の確立	支援を必要とする児童及びその保護者に対して、校内支援委員会や児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、組織的に支援していく必要がある。	特別支援教育コーディネーター	特別な支援が必要な児童及びその保護者に対して、校内支援委員会や児童の特性に寄り添った支援を検討し、専門機関と連携し、組織的に支援していく必要がある。	[努力指標] 支援を必要とする児童及びその保護者への支援について、児童の特性に寄り添い、組織的に支援することができたか。	支援が必要な児童及びその保護者に対し、組織的に支援できたと答えた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に教職員にアンケートを実施		
⑦組織運営 業務改善	組織の活性化や効果的・効率的な業務改善を図る。	学校経営ビジョンの具現化に向けて、学校運営委員会やそれを支える分業部会を充実させ、チーム学校で効果的・効率的に業務改善を進める。	教員	職員は協力的であり、組織的・効率的に取り組む意識は高い。経験の少ない若手・中期・後期によって一人が抱える負担を少なくしていく必要がある。ICT利用による業務改善、文書の電子化を進める。	[成果指標] ICT利用による業務改善、文書の電子化を進め、時間外勤務時間が月平均50時間より少なくなる。	4月～2月までの時間外勤務時間が月平均50時間より少ない教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		毎月の時間外勤務時間を調査し、年の平均時間を出す。		
⑧研修	外部講師を活用するなど、校内研修に積極的に取り組み、授業改善に取り組む。	研究推進委員会を中心に、校内研修会や研究授業、授業交流、外部講師の活用など、積極的に取り組み、授業改善に取り組む。	教務主任 研究主任	国語の授業改善に積極的に取り組む教師がほとんどだが、主体的に学んでいると感じている児童がそれほど多くない。昨年度までの取り組みが、児童が主体的に学ぶ授業にするための校内研修や研究授業を行っている。	[努力指標] 積極的な姿勢で研修に取り組み、授業改善に努めることができたか。	積極的に校内研修、研究授業に取り組み、授業改善に努めることができた教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に教職員にアンケートを実施		
	若手教職員の早期育成を図る。	若プロを計画的に実施し、「チーム分校」で若手教職員を育てる。	若プロコーディネーター	若手教員が多く、早期に人材育成をすることが重要課題である。授業改善、学級経営など計画的に進めていく必要がある。	[成果指標] 校内研修や若手早期育成プログラムなどで学んだことを、授業改善や学級経営等に活かそうとしたか。	校内研修や若プロで学んだことを、授業改善や学級経営等に活かした教職員の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:なし		7月と12月に教職員にアンケートを実施		
⑨保護者 地域との連携	学校の情報を提供する開かれた学校づくり、信頼される学校をつくる。	学校だより、学年便り等各種便り、ホームページ等で学校や児童の様子を知らせるとともに、地域や保護者からの要望を真摯に受け止め、教育活動に必要と思われることに限っては、積極的に取り入れていく。	教員	学校だより、ほけん便り、図書便りは定期的に発行されている。ホームページで学年の取り組みなどを随時紹介している。学期末アンケートなどで保護者の要望を聞き取り、対応している。	[満足度指標] 学校は期待に応えようとしている。	学校は期待に応えようとしていると感じている保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7月と12月に保護者にアンケートを実施		
⑩教育環境 整備	児童が安全で安心して学校生活を送れるよう校舎内外の環境整備に努める。	日常的に整理、片付けを意識し、校舎内外の環境整備に努める。学期に一度の管理場所の安全点検を通して、不備な箇所施設の修繕を行う。	教員	安全点検と早期の修繕を実施しているが、校舎の老朽化に伴い、恒常的に不備箇所が発生している。	[満足度指標] 学校の安全の確保と環境の整備に努めているか。	学校の安全の確保と環境の整備に努めていると答えている保護者の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		7、12月に保護者にアンケートを実施		
学校関係者評価										